



令和8年度 第4号

今日の授業風景（小学部6年生・国語）



4月15日(水)の3時間目、6年生の教室を訪ねると、国語の授業が行われていました。

まずは頭の準備体操として、「な」のつく言葉を探すクロスワード風の活動からスタート。「な〇〇」「〇な〇」「〇〇な」といったお題に、子どもたちはテンポよく答えていきます。

場が温まったところで、本時のメイン「伝わるかな、好きな食べ物」の学習へ。ルールは一つ、「食べ物の名前を一切使わずにその食べ物を伝えること」です。例えば、私の好物である北海道の「生うに」なら、「鮮やかなオレンジ色で、口に運ぶと濃厚な甘みと磯の香りが広がり…」といった具合に表現します。対象をじっくり観察する力と、それを言葉にする高い表現力が試されるこの課題。子どもたちはロイロノートを使って互いの文章を共有し、「これって何のこと?」と楽しみながら、表現の工夫を学び合っていました。

今日の授業風景（小学部3年生・会話）



4月15日(水)の2時間目、小学部3年生が今年度初めての「会話」の授業に臨みました。

英語を選択した児童は、まず全員で多目的室に集まって全体説明を受けました。その後、担当の先生に名前を呼ばれ、グループごとに教室へ移動しました。フランス語も同様で、一度1つの教室に集まってから、それぞれのグループに分かれました。

フランス語の集まりでは、先生に名前を呼ばれた際、子どもたちが決まって口にする言葉がありました。「なんて言っているの?」と尋ねると、ある女の子が『Présente(プレゼント)』です。男の子なら『Présent(プレザン)』と言うんですよと教えてくれました。さらに意味を尋ねると、『「ここにいます(出席しています)」という意味です』とのこと。今日もひとつ、フランス語の知識が増えました。

《 お詫び 》

4月14日(火)の下校時、スクールバス(ストック線)が接触事故に合い、約1時間の遅れが生まれました。幸い、児童生徒および乗務員に怪我はありませんでしたが、お子様やご家族の皆様には多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

今日の授業風景（小学部2年生・図画工作）



4月15日(水)の3・4時間目、2年生は図画工作の授業に取り組みました。学習課題は「じこしょうかいカードをかこう」。iPadで撮影した自分の顔を見ながら、クレヨンやクレパスで自画像を描きます。

本番の画用紙で顔が小さくなりすぎないように、事前に下描きをして構図を確認していました。また、クレヨンをティッシュでぼかす技法を使いこなす児童もおり、事前に見せてもらった動画から学んだとのこと。その適応力には驚かされます。

《 お知らせ 》

<< オメガングへの参加 >>

「学校だより 第1号」でお知らせいたしました「オメガング」出演に関する続報です。

4月14日(火)を期限に中学部の生徒・保護者の皆様へアンケートを実施したところ、回答数50件のうち33名から「参加希望」との回答をいただきました。多くの前向きなご意見をいただいたことを受け、開催時間や人数規模等を検討した結果、**中学部の希望者で参加する方針**で企画を進めることといたしました。

なお、アンケートでいただいたご質問等につきましては、今後校内に発足するプロジェクトチームにて協議し、詳細が決定次第、随時お伝えしてまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<< 日課表(校時)変更に伴う現状のご報告とご確認 >>

今年度当初より日課表を変更し、本格的に授業が開始してからしばらく経ちました。ここで、現時点で見えてきた「導入の効果」と「今後の課題(懸念点)」についてご報告いたします。

① 導入の効果

生徒の心身のゆとり： 中学部の生徒において授業間の時間に余裕が生まれました。学習内容の振り返りや宿題への着手、次時の準備、友人との会話、落ち着いた教室移動などに有効活用されています。

教員の円滑な移動： 教員の教室間移動にも余裕ができ、授業開始時の指導をより充実させることが可能となりました。

日課の共通化による分かりやすさ： 学校全体で中学部の60分サイクル(50分授業+10分休憩)を基準としたため、午前・午後の授業開始時刻が統一され、児童生徒が学校生活のリズムをつかみやすくなりました。

② 問題(懸念)点と現状

登校時刻の繰り上げ： 昨年度より5分早まり8:20となりました。保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、大きな混乱なく運用できております。心より感謝申し上げます。

小学部「中休み」の短縮： 2・3時間目間の休み時間が短縮されましたが、他の休み時間との兼ね合いもあり、現在のところ児童からの戸惑いの声は聞かれておりません。

● まとめ

現時点では、日課表変更によるメリットが大きく、懸念していた点は大きな問題には至っておりません。今後も子どもたちの様子を注視しながら運用してまいります。